

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(和田小)学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

地域や各組織との連携を深めるためには、学校運営協議会の周知を図る必要がある。そのため、協議会の開催方法や情報発信の仕方を工夫する。
○委員の紹介の場の設定 ○教員全員参加の会の開催 ○たよりの発行回数の増加 等

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・学校経営構想の詳細について動画を視聴しながら説明を受けた。書面、口頭による説明に比べ分かりやすく、理解が深まった。
- ・グランドデザインについて、委員から児童の自己有用感を高める取り組みや様々な事情を抱えた児童に寄り添う存在の必要性などについて意見が出され、大所高所からの意見が交わされた。
- ・教員を交えたグループ協議で「目指す子ども像」を熟議でき、大変有意義だった。
- ・熟議にもう少し時間が必要と感じる場面があった。限られた協議会の時間内でどのような内容をどこまで熟議すべきなのか検討が必要。
- ・熟議は委員の大切な責務だが、熟議のみで留まらず、制度所期の目的につながるアクションを忘れないようにしたい。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・概ねできた。学校ボランティア活動の実施状況も活発で評価できる。
- ・学校ボランティア活動に参加して児童と交流し、教員の日々の努力が子供たちの成長につながっていることを実感できた。その感想をふまえて、熟議も深まった。
- ・各委員がそれぞれの立場で地域の子供たちや親と関わり、地域の一員として生きていけるよう努めてきた。家庭や地域での安定が、学校の活動にも大きく関係するため、支援につながっている。
- ・今年度、学校ボランティア活動は、学校支援CDが中心となって企画、運営をした。その他にどのような学校支援活動をすべきかという熟議はされなかった。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・コミスクだよりで都度内容が発信されているので良い。ブログでもボランティアによる学校支援活動の様子が画像等で見られ、情報発信できた。
- ・ボランティアが着用する「ビブス」作成を提案し、実現できた。ビブスには「和田小学校」及び「コミュニティ・スクール」の文字が表示され、これにより見守り活動時には地域の人たちの目に触れることになり、「コミュニティ・スクール」の周知につながった。
- ・各委員がそれぞれ地域の組織の中で協議会の内容を伝え、理解は深まってきた。しかし、新たな連携の動きには至っていない。今後、より連携を強め、単発的な学習ボランティアに留まらず、単元全体に地域が計画的に関われるような活動を展開したい。
- ・保護者が運営協議会の存在と役割をこの3年間でどの程度認知しているのか不明。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

児童の安全や居場所づくり、地域の魅力を生かした授業づくりなど、学校の課題に新たな提案ができるよう、地域の各組織や学校職員との連携をさらに深める。
○ 協議会・熟議内容の周知(地域・保護者)
○ 学校職員と話し合いの場の設定
○ 地域人材の掘り起こし